

(第6条関係)

事業概要書

事業名	松戸の農業をサポート・農業ボランティア養成事業
団体名	松戸農業サポート協議会 農業ボランティア部 野良の会
事業担当課	農政課
取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)	<p>(取り組もうとする課題について、その現状や背景なども含めて明確に記載して下さい。)</p> <p>「市民参加型農業による松戸の農業の維持・拡大！」</p> <p>①松戸市の農耕地は平成22年には630haと平成12年に比し80%、戸数も649戸の平成12年比78%と同じ歩となっている。これと同時に農業従事者の年齢も60歳以上が51%に至っている。</p> <p>松戸は都市近郊の農業地として、野菜栽培を中心とした農業形態としてきたが、これの担い手不足が顕著となってきた。</p> <p>②松戸の年齢構成は、シニア層の顕著な増加が見てとれる。</p> <p>これらの人々や、農業に関心を寄せる人々を農業ボランティアに取込む事で、土に触れる仲間づくりや、私たちの住む松戸という土地について考えてもらえる人々が増加することを期待し、松戸の農業の支援策としてこの「農業ボランティア活動」を役立てて行きたい。</p> <p>出典；平成22年 松戸市HP 農業センサス</p>
事業の目的	<p>都市型農業への参加と理解の促進</p> <p>この取り組みは農家と市民との間に強いコミュニティー形成が期待できる。特に市民側に松戸の農業に対して深い理解と、本当の意味での「地産地消」を感じ取って貰えると思う。</p> <p>それが地域の農業を維持・拡大する事の意義を共有し、松戸の将来につながると思います。</p>
事業内容	<p>(どのような課題の解決につながっていくのかが、わかるように事業内容を記載して下さい。)</p> <p>①農業ボランティアについての周知・広報</p> <p>②農業ボランティアの募集・養成</p> <p>③受入れ農家の募集</p> <p>④農家とボランティアのマッチング</p> <p>⑤ボランティアの派遣</p>
協働の必要性	<p>(なぜ、この事業を団体単独で取り組むよりも、市との協働で進めることが必要なのか？また、協働による取り組みが団体、行政(市)にもたらす効果を記載して下さい。)</p>

	<p>①この事業に対する信頼と安心感を農家・ボランティア両者にもってもらえる。</p> <p>②行政に馴染みにくいマッチングが民間に委託できる。</p> <p>③松戸の農業の保全について行政・農業機関・民間と3者一体となった活動が可能になる。</p> <p>④事業の質の継続性の為に大変重要である。</p>																					
<p>事業の目標</p>	<p>(事業に取り組む上で、どれだけのことを達成したいのか、その目標を記載して下さい。)</p> <p>※事業の成果目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載して下さい。</p> <p>①ボランティア数、受入れ農家数の拡大</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">26年</td> <td style="text-align: center;">27年</td> </tr> <tr> <td>ボランティア数</td> <td style="text-align: center;">70名</td> <td style="text-align: center;">100名</td> </tr> </table> <p>(目標とする員数は、会員が翌月の活動日をエントリーしてくる比率が会員数のほぼ60%であることから、受入れ農家数の3倍にエントリー率を乗じて設定した。)</p> <p>受入れ農家数 13戸 17戸</p> <p>(ボランティアのエントリー数の3分の1の戸数とした。)</p> <p>②受入れ農家の作付面積の維持・拡大</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">26年</td> <td style="text-align: center;">27年</td> </tr> <tr> <td>受入れ農家数</td> <td style="text-align: center;">13戸</td> <td style="text-align: center;">17戸</td> </tr> <tr> <td>作付面積</td> <td style="text-align: center;">13ha</td> <td style="text-align: center;">17ha</td> </tr> <tr> <td>ボランティア導入後</td> <td style="text-align: center;">14.3ha</td> <td style="text-align: center;">18.7ha</td> </tr> <tr> <td>耕作変化面積数</td> <td style="text-align: center;">+1.3ha</td> <td style="text-align: center;">+1.7ha</td> </tr> </table> <p>③この活動の仕組みの定着から継続性を重視した取組みを。</p> <p>ボランティアに従事する皆さんの大方は「土作りから収穫まで」農業の全般にわたって係り合っ行ってきたいと希望されている。</p> <p>この方々のモチベーションを維持・継続していくための取組みを事業の3年目として重視していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会の共有農園を持ち「土作りから収穫まで」会員の手で関わっていく仕組みづくりを行う。 ・共有農園を中心に通年型研修体制とそこを起点としたボランティアの供給体制づくりを検討する ・市内の大学におけるボランティア学習プログラムとの結びつきを検討する。 <p>④ボランティア相互の仲間作り促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会報などの紙通信で、日常的な活動を会員相互に知らしめる体制づくり。 		26年	27年	ボランティア数	70名	100名		26年	27年	受入れ農家数	13戸	17戸	作付面積	13ha	17ha	ボランティア導入後	14.3ha	18.7ha	耕作変化面積数	+1.3ha	+1.7ha
	26年	27年																				
ボランティア数	70名	100名																				
	26年	27年																				
受入れ農家数	13戸	17戸																				
作付面積	13ha	17ha																				
ボランティア導入後	14.3ha	18.7ha																				
耕作変化面積数	+1.3ha	+1.7ha																				

(第6条関係)

事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科目	金額	積算内訳
団体	労力換算額	¥ 313,000	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	金額	積算内訳
団体	野良の会拠出金	¥ 30,000	会の一般経費から充当
	自己資金の合計額 (b①)	¥ 30,000	
	事業費収入合計額 (b②)	¥ 0	
	団体より拠出金 (対象外経費分) (b③)	¥ 27,000	対象外経費を団体会計より拠出
	自己資金、事業費収入等の合計額 (C)=(b①+b②)+b③	¥ 57,000	
	市	協働事業負担金 (D)	¥ 250,000
	合計額(E)=(C+D)	¥ 307,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償金	¥ 30,000	外部講師謝礼 30000円*1回
	キャンペーン用のぼり、帽子	¥ 100,000	のぼり・3000円*10組、 帽子・700円*100ッ個
	印刷費	¥ 50,000	チラシ 5000枚*7円 ポスター 1000枚*15円
	講習会場、用具など使用料	¥ 30,000	会場・用具代 (春3回*5000円) + (秋3回*5000円)
	消耗品費	¥ 40,000	プリンターインク代5000円*4回分、資料・広報用紙代 5000枚*2円 イベント用パネル 1000円*5枚分 講習 会用文具 5000円
	会場費	¥ 10,000	1000円*3時間*2回、500円*2時間*4回
	通信費	¥ 10,000	応募者への葉書、封書代 (春、秋 2回 各々30名に 参加可能通知葉書、講習会参加用資料送付封書)
	保険	¥ 10,000	現地講習会 行事保険 春・秋2回分 (28円*30名*4 日)*2回
		対象経費の合計(F)	¥ 280,000
(その他経費)	会議費 (弁当代他)	¥ 17,000	会員の弁当代 600円*20名、講習会講師謝礼
	通信費	¥ 10,000	応募者への通信費、ファックス代
	その他経費の合計額(G) = (b③)	¥ 27,000	
	合計額(H)=(F+G)	¥ 307,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (D) が、対象となる経費 (F) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (b①) 欄が、対象経費 (F) 欄の10%以上であること。
- 3 協働事業負担金 (D) が、自己資金 (b①) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 4 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×500円
	マッチング	72,000 円	6 人 × 2 h × 12 回 × 500 円
	シフト運営検討会	108,000 円	9 人 × 2 h × 12 回 × 500 円
	ボランティア養成講座	40,000 円	10 人 × 4 h × 2 回 × 500 円
	ボランティア現地講習会	75,000 円	5 人 × 5 h × 6 回 × 500 円
	受入れ農家説明会	18,000 円	6 人 × 3 h × 2 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
	合 計 (A)	313,000 円	